

「全鍍連」 2020年 7月号 理事長のよこがお

石川県鍍金工業組合 理事長 中島 秀明（中島メッキ工業(株) 代表取締役社長）

「ウイズコロナ時代を生きる」



石川県鍍金工業組合の理事長を仰せつかってます中島です。

まずは「令和2年7月豪雨」で九州地方や岐阜県ならびに長野県で自甚大な被害がでました。その中で亡くなられた方々そして土砂災害、水害で被災された方々に心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの緊急事態宣言が解除された中でも全国的に感染が拡大広がっていて第二波、第三波の到来が懸念されている今日この頃、今まで当たり前が続くと思われてきた日常生活が大きく変化しようとしている中、先の読めない不安な時代をどう生きて行けばよいのでしょうか。

これから、色んなものが変わっていくと思われます。今までのことは白紙になったと思って新たな生活様式を模索する必要があり、変化しなければ生き残れない危機感がどのような業界にもあると思います。

先日、新聞記事に「先人の知恵に救われ」と言うタイトルで掲載されていました。歴史上、人類は何度もパンデミック（世界的大流行）を体験して来ています。奈良時代の737年に天然痘の大流行で人口の三割が死にました。幕末にはコレラの大流行があり、それにも人間は対処してきました。

今よくよく考えると、食事中はおしゃべりをしないと、やたらに握手や抱き合ったりしないという日本人の生活様式、礼儀作法は、パンデミック対策として成り立っていると。

お公家さんたちは、出仕する際に犬でも猫でも人間でも、死体を見たら出仕してはいけない決まりがありました。そうした「穢れ感」は、ウイルスや疫病に触れる危険性を意味していたのです。

先人はそうやって疾病や感染症対策を生活の中に取り入れて来ました。これが日本でのコロナウイルスの死亡率の低さを生んだのではないかと書いてありました。

私達は豊かな時代に、そうした知恵を忘れかけてたのではないのでしょうか。これからコロナと

共に生きる「ウイズコロナ時代」が始まります。先人の知恵を今一度理解し直し、生活様式を変えていかなければならないと思います。

まだまだ東京都内では毎日のように感染者が数多く発生しております。何はともあれワクチンと治療薬の開発で早期の感染症の収束を願うばかりです。